

福島の子どもたち

～放射能汚染下での保育～

2013.11.24

福島めばえ幼稚園
主任 伊藤 ちはる

震災後の子どもの姿と取り巻く環境

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
・2011 4～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク・上着・帽子着用で登降園 ・手洗い・うがいの徹底 ・出入り口、靴箱、窓の遮断シート ・水筒持参 ・給食・牛乳選択制 ・外遊びなし(1年間) ・園外保育なし ・行事の中止・自粛 ・畑、栽培なし(自然物に触れない) <p>3～5μs/h</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母子分離不安の泣きが少ない ・「外に出たい」とあまり言わない <p style="text-align: center;">↓</p> <p>震災直後の生活の大きな変化や保護者の態度を察してわがままが言えない。過度の緊張と不安</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水、食料、ガソリンの確保 ・生活と子どもを守ることで必死 ・余震や原発爆発への不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も保護者へのトップダウンで指示を行う(共通理解のため、担任にクレームがいかないようにするため) ・避難訓練の早期実施 ・公共相談所の紹介(情報の提供と安心のため)



上着・マスク着用の登園



遮断シート

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
6～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・室内遊びの充実、運動遊びの確保 室内サーキットなど ・砂遊びの代用(感覚遊び) カプラ、各種粘土 ・ダイナミックな運動遊び ～非常勤心理士より～ ・呼吸が浅いので息を使った遊び ・体をゆだねる遊び を取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスからか奇声、不機嫌さの泣き、けんかが頻繁におこる ・地震ごっこや津波ごっこはだんだん落ち着いてくる ・りんご病や微熱の長期化が見られる ・クラスから避難者が出て寂しさを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の錯乱により自分の行動に自信がもてなく保護者同士本音と言えない。 ・夏休みをきっかけに避難の最終選択に迫られ迷う ・自分や家族の決断はこれでいいのかの不安 (夫婦・家族不和の現実) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震ごっこや津波ごっこ、絵を描いた時の収束の対応の仕方の紹介 ・大人も感情があって、イライラや不安があっていいことの認めなど心のケアの手紙を配布 ・独自の相談室の開設



• サーキット遊び



• サイバーホイール



• 砂遊びの代わりに カプラ



• いつでも体を動かせる場

通常の絵



りんご狩り



白鳥見学

子どもの絵



土砂崩れ



津波



3歳児 自由画帳より

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
夏休み以降 平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛・短縮の行事だか子どもの喜ぶ顔を増やすために保育の工夫 ・できるだけ経験させる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・外に行かない生活に慣れる ・室内のため他学年の遊びを良くみてまねる。交流が増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配事が減り、日常のことをさせてあげたい気持ちに変化(食品や砂遊びはまだ心配) ・市や県の取り組みが見えてきた(検査・除染) 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできる行事、子どもの喜ぶ保育展開 (補う保育から何を育てるかの保育の原点に戻る)



放射線量測定器設置



室内栽培

平成24年度の取り組み

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
4月	マスク、上着着用はなくなる 昨年夏の除染後の放射線量が安定 0.3 μ s/h	例年通りより母子分離不安で、泣く子が多い 物音や避難訓練を怖がる子が出てくる	余震などへの不安は減る (幼稚園に対する放射線対策には満足) 福島で生きる覚悟ができる	・保護者の個人の意向は伺うが、ある程度通常の保育内容に戻す
2学期 ～3学期	保護者の確認のもと、外遊び30分 保育者の管理のもと一斉指導 栽培は観察のみ収穫して購入物を食べる 園外保育は県外か室内	外で遊べる開放感や満足感はある しかし許可が必要	外遊びはさせたいが、けがが心配 草や葉、虫は触らせたくない 放射線の話は話したくない	外遊びを短時間でも行えることでの効果はあるが、質の保障は疑問 感覚遊びや自然体験の影響はどの程度か

平成25年度の子どもの姿から見えてきたもの

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
4, 5月	<p>外遊びが通常通りに行われる</p> <p>自然物に触れて遊べる</p>	<p>やっと確認しなくても行きたい時に外で遊ぶことができるようになる</p> <p>落下や転倒のけがの多発</p> <p>虫を集める殺すことを繰り返す</p>	<p>子どもにいつもの体験させたい</p> <p>我慢させたくない</p>	<p>大きなけがにならないように見守りと経験を増やす</p> <p>保護者にけがの対応と生き物への出会い方の指導、協力を求める</p>

日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
6～7月	砂遊び再開 草花の色水 作りや種取が できる	砂との出会いが初めてのため、3～5歳児まで同じ感覚遊びをしている ↓ 砂を掘る、足を入れる、手で触っているバケツに集めるなど 例年行っている運動能力検査で(5月現在) 4歳児の運動能力が低下している結果がでる	子どものかわり方の相談が増える ↓ 背景として ・震災疲れ ・相談できる余裕がでた ・子どものストレスが行動に出始めた	砂遊びのほか、感覚遊びの充実 築山やタイヤ設置など子どもが体を動かす環境の見直しと改善

感覚を刺激する環境作り



築山のぼり



砂遊び・・・感覚遊び



日にち	環境・配慮	子どもの姿	保護者の様子	幼稚園の対応
9～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・なし、ぶどう、りんごなどの収穫遠足に再開 ・どんぐりや葉の収集開始 (保育の中で実施) 	<p>5歳児が自己表現がうまくいかずいじわる、すねる、あきらめるなどの内に困った言動が増える</p> <p>手が出る、暴れるなど感情の調節が難しい子が出てくる</p> <p>4歳児は運動能力の回復が見られる(経験したもの)</p> <p>けがは減ってくる</p>	<p>園外保育の実施に関し、150名の園児に対し、1名遠慮したいと申し出る</p> <p>自分自身の楽しみに向かえるようになり、サークル活動や趣味ができるようになる</p>	<p>子どもの心の安定のため、1対1の対応を増やす</p> <p>引き続き</p> <p>体を動かす環境づくり、感覚を研ぎ澄ます保育内容を工夫</p>

今後の幼稚園の役割

- 子どもの姿の原因を探って対応する
 - 震災後の影響・・・家庭不和、メディア脳、経験不足 ？
 - 特別支援が必要な子どもの脳か？
 - 現代の生活環境の変化の影響か？
-
- 子どもの様子をデータで観察する
 - 運動能力検査 語彙検査 子どもの絵(風景構成法・HTP)
 - 保護者のアンケート(意識調査)

子どもの笑顔で安心して友だちと遊べる場所